

開会挨拶

鈴木 寛 (文部科学副大臣)

今日は次世代の環境発がんを考える会の設立ということで心からお祝いを申し上げたいと思います。今日はがん研究の錚錚たる先生方がお集まりでございますが、この会の発足にご尽力をなさいました皆様方に、心から敬意を表したいと思います。とりわけ事務局をお努めになられました樋野先生を始めとする研究室の皆様方、順天堂大学の関係者の皆様方にも心から敬意を表したいと思います。

私から申し上げるまでも無いのですが、がんと言いますのは、日本人の半分が罹患し三分の一がこれで亡くなるということで、私も、亡くなられました山本参議院議員のお手伝い、あるいは仙谷国家戦略担当大臣のお手伝いをさせて頂きながら、がん対策基本法の設立に携わらせて頂いたことがございます。

本当に国民的な最重要課題の一つがこのがん対策ということだと思います。とりわけ我が国は高齢化が最も進んでいる国ということでございますので、そういう意味でも、最もがんにかかる比率が多くなるわけでございます。高齢化とがんというのが極めて相関性が高いということからも、高齢化社会の日本においてこの重要性というのは申し上げるまでもないことでございます。

それからこのところ問題になっておりますのが、例えばアスベストと中皮腫。これも国会でも大変な議論をさせて頂き、そしてかなり遅ればせではございますけれども、色々な対応が今政治的な課題にもなっています。新しい政権になりましたらば税の増税をさせて頂きましたけれども、この「たばこがん」というのも、まさに古くて新しい課題でありまして、喫煙というものをどう考えていくのかと。いずれにしても今回のこの「次世代の環境発がん」というテーマは、現下のこうした我が国の情勢、とりわけ新しい政権におきましては医療というものを最重要政策課題の一つに取り上げさせて頂きました。そして10年ぶりに診療報酬を引き上げまして、特に診療については3%の増、そしてとりわけがんを始めとします先端・高度医療を行っている病院、特に入院部門については、例えば大学病院等々で7%増の改定を致したわけでありまして、もちろん、十年間医療費を切りまくって参りましたので、これでリカバーしているとは思いませんが、そういった方向に舵を切りつつあるということをもってしても、我々の問題関心の高さというのはご理解頂けるかと思えます。

それから私どもは、医療あるいはがんのような難病に関する治療、そしてその基盤となります研究ということ、国民福祉の観点から取り組むことは当然でありますけれども、ともすればこれまで医療というものを「負担」という側面だけで捉まえて参りましたけれども、折角世界に冠たるがん治療、それを支える基盤研究、そうした積み重ねがございますし、我が国のがん研究、がん治療というものは最高の技術水準にあり、コストも最小です。是非ともこれを成長戦略の一つに掲げて、「ライフ・イノベーション」というものを「グリーン・イノベーション」とともに二大柱の一つに掲

げまして、我が国で世界最高のがん研究、がん治療というものを確立して、それをアジア、ひいては中東、アフリカ、そうした所にも展開をしていきたい。そうしてまさに、「win-win」、日本と海外の皆さんが健康で幸せになる、その発信を日本からしていくことで、世界で名誉ある地位を占めていきたい—ということも考えているわけでございます。

いずれにしても、これはまさに世界中の人類の課題のがん、中国などもこれから高齢化がどんどん進んで参ると思えますので、そういうことになっていくと思えますし、日本のがんに対する研究、治療というものはお隣の国中国でも非常に待望されているところだと思っております。

そういう中で、この「環境発がん」というコンセプトというのは、研究において我が国が世界でも非常に優位なポジションにあり、それをさらに社会としても集中して社会投資を増やし発展させていくということは極めて意義深いと思えますし、やはりある意味でアジア特有の傾向というものもあるかと思えますので、そういう意味でもアジアの名士として日本がこの分野をリードしていたということは、私どもも大変に期待しているところでございます。

私ども今まさに国家戦略、成長戦略を作る中で、そういう認識のもとで、このがん研究が重要、そしてそのベースにある環境発がんというものを是非捉まえていきたいと思っております。そういう中で、本当に感慨深いこの会の設立に大変期待をしております。また、新しい政権は、Evidence-based policy making ということを重視してありまして、今までは Power-based policy making でありましたが、力が強いところに社会資源が投入されるという時代を卒業して、まさに社会科学的なエビデンス、自然科学的なエビデンス、そうしたエビデンスに基づいてリーズナブルな、誰もが納得する政策立案を行っていかうと考えております。私は、その部分が日本に一番欠けていた部分だと思っております。そういう中でこの会議、今日お集まりの皆様方が、がん研究にこれからも様々なエビデンスを出して頂いて、ここに取り組むことが社会全体の福祉の向上に導くものと考えます。私たちは、「富国強兵」から「健康長寿」へ、というのを国家作りのコンセプトに変えていかうとも思っておりますので、健康長寿社会を作るということに対して様々な知的な貢献をさせて頂きますことを心から期待申し上げまして、この会の発足へのお祝いと、そして私どもから皆様方へのご期待とお願いのメッセージとさせて頂きたいと思えます。

大変おめでとうございました。そして大変期待しておりますのでどうぞよろしくお願い致します。